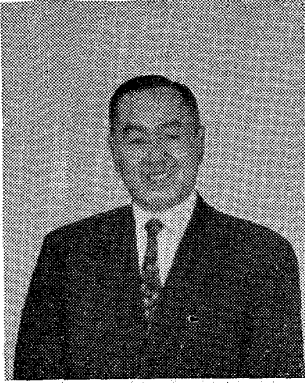


## 随 想

### 日本鉄鋼協会の拡大強化について

俵 信 次\*



わが国鉄鋼の生産量は、昨年英国を抜き世界第4位に伍するに至つたのでありますが、いわゆる倍増計画に沿うて数年後には西独をも凌駕する勢であります。私は、日本現在の成長性から見てこの予想は必ず実現されることと信ずるものでありますが、これはひとえに製鉄に携わる各位ことに技術者の方々が、先進国の製鉄業と十分連携し、あるいは技術提携をあるいは設備の移入を果敢に実施し、彼等の優れた生産技術を十分咀嚼し自らのものにされた努力の賜物であると存じ敬意を表する次第であります。私は、昨秋英国鉄鋼協会の特別大会に参加し、米国各地の製鉄所を見学する機会を得てこの感を深くしたのであります。

かくの如くわが製鉄界も生産量の点では世界一流水準に達したのでありますが、技術研究並びにその設備の点では残念ながら未だ遠く及ばないのではないかと愚考致します。こう申すのは、昨年米国各地見学の際多くの研究所を見まして感じたのでありますが、本邦におきましても近年各社の中央研究所が続々と設立される現状を見ますと、先ず生産設備を第一とし、次に研究という後進国として当然の過程であり已むを得ぬ段階であるとも考えるのであります。

しかしいよいよ生産量において一流国に伍するに至りました今後は、従来のように先進国より技術の導入を受けるといふことは極めて困難になると思われませんが、既に英国等は勿論、米国においてもその徴候が見えて来た様であります。われわれも今後は生産量もさることながら、自らの研究による技術の向上を計り、技術研究の上でも彼等を凌駕し、名実共に兼ね備えることを期さねばなりません。それには各企業においてそれぞれ研究に重点をおき、例えば研究費の増額、関係人員の増加等を急速に実施されることはいかに及ばず、学校においては優秀な技術者多数の育成に努力されることが第一要件であります。これ等に関しては数年来既に着々と計画され実施に移されております。また業界の技術、学術の中心となるべき機関であるわが日本鉄鋼協会は、現在7千余人の会員を有し、会誌の発行、講演会の開催はもとより、近年は鉄鋼技術共同研究会あるいは「鉄と鋼海外版」の発刊等に活躍して参りました。これ等の総合的活動が最近のわが国製鉄技術の発達に大いに寄与致しておることは当然でありまして、

\* 本会副会長、太平金属工業株式会社社長 工博

御同慶の至りであります。

しかし前述致しました通り、稀に見る急激な発展を成し遂げ、世界第一流に押し上つたわが製鉄業界は、今後いよいよ技術、経済の両面において変転定まりない世界情勢に直面せざるを得ないのであります。この新事態に対処するためには、業界におけるわが協会の責任もまた極めて重大でありまして、その進むべき途も正に一大転機に当り、将来に即応すべき準備は一日も遅滞を許されないのであります。

この時に当り鉄鋼協会におきましては、昨年来浅田会長指導のもとに企画委員会にて協会拡大強化案が立案され、慎重審議の結果各方面の御協力によりいよいよ来年度より実施の運びに至りましたことは誠に時宜を得たものであり業界のため慶賀に堪えません。

本計画によれば協会は先ず事務局を強化し、国内の各種事業を積極的に拡大し、研究成果等の推進、統合、交流等を遂行する中心母体となるは勿論、海外の学会との連絡あるいは交流を盛んにし、日本鉄鋼生産量の驚異的發展と相呼応して国際的学会として十分整備されることと存じます。

かくしてこそ、わが鉄鋼協会も初めて業界各位の御活躍に多少なりとも御助力出来ることと、当事者一同確信しております、業界並びに会員各位におかれましても、何卒従来に増して御支援を賜り度く切にお願い致す次第であります。